

串間温泉いこの里

〒888-0008 串間市大字本城987
TEL 0987-75-2000 FAX 0987-75-2280
営業時間：午前10時～午後10時
定休日：毎月第3水曜日

風呂の日イベント開催中

今月の風呂の日は20日(日)です。

毎月第3日曜は風呂の日としてハズレくじなしの抽選会、レストランお一人様100円引などのイベントを開催。レストラン前で行う手相鑑定では、仕事運や恋愛運、健康運や金運など気になる項目を1つ選んでいただき、手相を見て鑑定・アドバイスを行います。

◎手相鑑定料金=500円(5分)

温泉バス運行中

市内3コースを定期的に運行しています。日程・乗降場所は指定されていますので、利用される際には予約をお願いします。

※詳しくはいこの里までお問い合わせください。



イベントのお知らせ

いこの里ニュース

第2回わくわく温泉市

5月4日、5日に開催した「第2回わくわく温泉市」。おかげさまで天候にも恵まれゴールデンウィーク期間中約4,000人を超えるお客さんでにぎわいました。地元の農産物や海産物、新茶などが人気でフリーマーケットも大好評。ハズレくじなしの抽選会やニジマス釣り、手相鑑定、プラレールやおもちゃ病院、長洲剛のものまねショーも人気で喝采を浴びていました。ご来場、ありがとうございました。



今月の表紙

竹原英智・照美さん ご夫妻
TAKEHARA hidetomo,terumi



大東地区・井牟田にお住まいの竹原英智さん(36歳)、照美さん(35歳)ご夫妻は甘しょ農家を営んでいます。英智さんは高鍋町の出身。照美さんの実家の後継者として、2年前に串間に来ました。英智さんの決断に「最初は不安でしたが、なんでもできる人だと信じていました」と照美さん。英智さんは「農業はまだ新米。でも、いずれは甘しょの加工品づくりに挑戦してみたい」と話します。「将来は子どもが後継者になってくれればいいですね」と笑顔で話すお二人でした。

FROM EDITOR'S

畜産 産王国宮崎県を襲った家畜伝染病口蹄疫。懸命の防疫作業が続くものの、その猛威はなかなか収まりを見せない。毎日不安の中で過ごす畜産農家の皆さんの心情は察するに余りある。一日も早い終息をただただ願うばかりである(カ)

先日、江切川に蛍の撮影に行ってきました。蛍が飛んでいるか心配しましたが、元気に飛んでいて一安心。不慣れた撮影も、きれいな蛍を写すためにがんばりました。蛍が生きていけるような自然を残したいと思った一夜でした(ナ)

広報 報紙をご覧のみなさん、はじめまして。4月の異動で情報政策係情報担当になりました(ニ)23歳です(若い!)。先輩方には迷惑をかけつつ日々の業務にあたっています。市民の皆さん、これから1年間よろしく願いいたします(ニ)

先

祖が出ていった土地に赴任したのは何かの縁だろう。そう覚悟は決めたものの「務まるか」と、不安がつきまとい続けた3年間だった。去り際に離れたい心境になれたのは、温かく受け入れてくださった市民の皆さんのおかげと感謝している。私の一族が秋山地区から宮崎市に移り住んだのは、80年以上も前と聞いている。祖父は15年前に他界したが、北方尋常小学校(現・北方小学校)を出ており、秋山を取材で訪ねると、80歳前後の方からよく噂を聞いた。赴任して初めて担当したコラム「岬太郎」では、さっそく自身のルーツについて書かせていただいた。「人の顔が親しげに映るのも遺伝子のせいか」との一文は、祖父によく似た顔をよく見かけたからだ。

「この人も自分とどこかでつながっている」。そんな意識があったせいだろうか。取材対象に感情移入してしまう場面も多かった。記者としては「一歩引いて冷静な視点で見詰めなければ」と心掛けていても、喜怒哀楽を共有し、イベントにはまりこんでしまう。それはそれで記者冥利に尽きることだ。くしま市民秋まつり、あたご祭りでは気付けば手にはビールや焼酎。「どうしたら串間は発展するか」と問われ、若手の商工業者や農家とかんかんががく議論を交わすのも、地元紙記者ならではの醍醐味だった。

去る直前の2月末には心底驚かされたニュースが飛び込んできた。都井岬観光ホテル突然の閉館だ。何とか往年の輝きを取り戻したいと願う、事あるごとに都井岬を紙面で紹介してきただけに、取材をし

ルーツの地で

発を果たしたと聞き、胸をなで下ろしている。2度と観光の中核施設が灯を消さないよう、市民一丸となって盛り上げてほしい。都井岬に限らず、色んな場面で「新聞の力で串間を盛り上げて」とよく頼まれた。でも主役はやっぱり市民。力があるのは新聞ではない。テレビや新聞など、メディアは市民の情熱をほんの少し後押しするだけだ。幸島や旧吉松家住宅など、文化財や天然記念物の魅力を紹介しきれないうちに去ってしまった、残念でならない。食卓の上をすべて地元産で飾れるほど多彩な食材もある。県内どの自治体と比べても資源の豊かさでは決して見劣りしないと信じている。

現在担当している県庁は情報と人が集まる一大拠点。それだけに屋外へ出かける取材は少ない。串間を離れてまだ2カ月だが、すぐに現場へ出かけられた支局時代が懐かしくて仕方がない。都井岬から眺める夕日、住民が丹精した大平のアジサイロード、世界の果てまで続くような石波の砂浜。3年間も過ごせば、お気に入りの風景は絵がきのように心に焼き付いている。

新聞記者にとって赴任地は第二の故郷だが、私にとってはルーツの地でもある。いづれまた、お邪魔するだろう。足しげく通った親不孝通りも、そろそろ恋しくなってきたことだし。



Profile

のべただゆき(37歳) / 1973(昭和48)年、宮崎生まれ。九州大学法学部を卒業後、97年に宮崎日日新聞社入社。報道部(県警担当)、延岡支社、整理部を経て2007年4月から10年3月まで串間支局長。4月1日付で本社・報道部へ異動し、県政を担当。現在は口蹄疫問題を専門に取材活動をしている。



▲都井岬観光ホテル前で草を食む御崎馬。この光景がいつまでも見られるよう願っている。



随想 ◎野辺 忠幸

P R E S E N T S



お便りをくださった方から抽選で、「釜めし」と「豆乳鍋」セットのお食事券を25名様にプレゼント。応募締切は6月30日(水)当日消印有効です。

POST CARD

888-8555

お手数ですが50円切手をお貼りください

◎ご氏名
フリガナ

年齢 / 歳 性別 / 男・女

◎ペンネームまたはイニシャル

※記入がない場合、実名で記載させていただきます。

◎ご住所 □□□□□□□□

串間市役所総合政策課
情報政策係 行

(No.864/2010.6)

電話 () -

◎抽選で25名様にプレゼント致します。
串間温泉いこの里 お食事券